

令和3年度沖縄空手会館に係る指定管理者制度運用委員会 - 指定管理者制度モニタリング検証結果 -

1 委員会の開催について

今年度は新型コロナウイルス感染症拡大による県の緊急事態宣言が発令継続中のため、委員を招集せず書類審査によりモニタリング検証結果に対する意見聴取を行った。

2 書類審査：3人（定員4人）

【委員】元沖縄県立芸術大学学長 宮城 篤正

【委員】沖縄伝統空手道振興会事務局長 上原 邦男

【委員】公益社団法人沖縄県建築士会会長 金城 傑

3 審議概要

令和2年度モニタリング検証結果について

4 モニタリング実施結果の概要

(1) 維持管理業務（清掃、保守点検等）について適切に実施されている。

引き続き、安全・安心に利用できるよう施設の適切な維持管理に努めるものとする。

(2) 運營業務については、コロナ禍のもとで安定的に利用者を確保していく

ため、感染症予防対策の徹底、効果的な広報活動、アンケート結果等を踏まえたアフタフォローを行うことにより、利用者満足度の向上に取り組むものとする。

- (3) 自主事業については、安定的に運営ができるようサービス内容の改善・向上に取り組み、引き続き、施設利用の促進に努めるものとする。
- (4) 施設の利用に関する満足度は高いが、手続き等の面で満足度が低い状況があり、要望を踏まえた改善を図る。引き続き、アンケート項目の見直しや回収率の向上等を図るものとする。
- (5) 各事業での経費の見直しやコロナ禍での収益確保の工夫等に取り組み、事業全体として収支均衡に向けた取り組みを図るものとする。
また、施設利用者の利便性向上等にも取り組みながら、効果的な宣伝PRを通して誘客に努めるものとする。

5 委員からの主な意見

- ・維持管理や運營業務共におおむね良好とみる。
今回、自主事業のレストラン事業や売店の売上げ増はコロナ禍に負けず営業戦略が功を奏したといえよう。
- ・With-コロナ、After-コロナを見据えた準備を始めた方が良い。
- ・要望のある姿見をもう少し増やすことについては現状をみて検討するに値する。
- ・サービスの質に関連し、直ぐにでも出来る改善要請への対応を迅速に行う事は、大変重要と考える。
- ・財務状況についてはコロナ禍のなかで厳しい面もあるが、現状分析や課題をふまえ、更なる利便性や宣伝PRに務めること。
- ・コロナの大流行は県内町道場も稽古休止するなどあらゆる面に影響を与えている。沖縄空手会館は多くの利用制限があっても努力が見られる。
- ・長びくコロナ禍で、来館者数が減少している、特に外国からの来館者数が激減している。今後、With-コロナを見据えたオン・ラインでの空手稽古等ビジネスモデルを構築してはどうか。
- ・東京オリンピックで県出身選手が金メダルを獲る活躍があり、沖縄の空手が世界中から注目を浴びる。是非、この機を逃さずに沖縄の空手を国内外にPRして頂きたい。